

岡山 ⇄ 東京 ⇄ 秋田

マスコミ各社を招いて オンライン取材会を 開催しました



日本政策金融公庫農林水産事業では、これまで定期的に、メディアの皆さまを農林漁業の生産現場にご案内し、生産者の皆さまの取り組みをご紹介する機会を設けてまいりました。しかし、コロナ禍で記者の方々を直接現場にお連れするのが難しくなるなか、訪問に代わるかたちでの生産者の皆さまの取り組み紹介について検討してまいりました。

そこで、2021年9月27日、インターネットを利用した取材会を開催。弊社本店会議室にメディア

の皆さまをお招きし、東北・中国地方で先進的な取り組みをおこなう2社(株式会社サラ・株式会社大潟村あきたこまち生産者協会)と本店会議室をつないで、オンラインで取材していただきました。

当日は新聞各紙をはじめとしたメディア16社から17人の記者の方々が参加。距離を問わずリアルタイムでやりとりできるというオンラインの特性がフルに活かされたライブ感のある映像と、2社からの丁寧でわかりやすい説明に対して、活発な質疑応答がおこなわ

れました。

取材会に参加いただいたメディアの皆さまからは「ウィズコロナの貴重な取材の場であり、今後とも継続的に開催してほしい」といった声のほか、「農業以外の分野の取材の機会もぜひ設けてほしい」「第三者承継についての取材会をおこなってほしい」など具体的な希望が数多く寄せられました。

取材を受けていただいた2社からも、「メディア向けにPRする貴重な機会をいただけて感謝している。時間がもつとあると、より詳しく

い説明ができたと思う(サラ・小林社長)」「記者の皆さんが熱心に耳を傾け、質問してくださったので自分の想いは伝わったと思う。また、他社の話が聞けて勉強にもなった(大潟村あきたこまち生産者協会・涌井会長)」といった感想をいただきました。

日本公庫は今後とも、農林水産業や食品企業の皆さまの取り組みをメディアへご紹介するなどして、農林水産業の情報発信を支援してまいります。

(情報企画部)



野菜生産ハウスおよびバイオマス発電設備

持続可能な農業への取り組みが特徴的な、施設野菜を生産する法人で、2016年に設立しました。岡山県の笠岡湾干拓地で半閉鎖型グリーンハウスとバイオマス発電プラントを併設し、プラントで発生する電気・CO₂・熱をハウスに利用（トリジェネレーション）した循環型農業を実践中。環境に配慮するとともに、施設野菜生産で重要となる動熱費の削減を実現しています。

株式会社サラ

所在地…岡山県笠岡市
業種…施設野菜生産・販売
木質バイオマス発電
経営面積…ハウス12・9畧

野菜生産に当たっては、有機質培地や生物農薬を活用し、自然に近い環境を実現。生態系への負荷軽減を進めています。創業当初は野菜の生産量が想定を下回ることもありましたが、2年目以降、さまざまな改善策の実施により順調な推移となっています。

現在、生産した野菜は国内量販店などを中心に販売しています。将来的には、生産した野菜に加え、栽培プラント設備インフラのシステム自体も輸出することも視野に入れています。

同社小林社長は、「バイオマス発電を利用し、トリジェネレーションを実践しているのは世界中で当社だけ。野菜生産と併せてこのシステムの普及を進め、世界一の企業をめざす」とお話しされています。



パックご飯製造工場

米生産を主業とし、加工・販売に加えて輸出への取り組みにも積極的な農業法人です。同社は干拓地である大潟村へ入植した農家により1987年に設立されました。米生産の傍ら、加工による米の高付加価値化に取り組み、発芽玄米、米粉、グルテンフリー食品・食物アレルギー対応食品、非常食などのレトルト食品、甘酒、パックご飯などの加工品を開発・販売しています。

株式会社 大潟村あきたこまち 生産者協会

所在地…秋田県南秋田郡
業種…稲作ほか
経営面積…920畧（水稲900畧、
玉葱20畧）（協会加入農家の合計）

同社は米の販売拡大には海外市場への取り込みが必須と判断し、2016年から輸出を開始しています。現在では米粉を使ったグルテンフリーのパスタ類が輸出商品の中心ですが、現地の港に倉庫を借りて、そこから食品や米を販売先に出荷する物流システムを稼働させています。輸出先の荷受業務を自社で賄うことで、物流コストの大幅な引き下げを実現し、競争力が高まりました。

取材の中で涌井会長は、「パックご飯の輸出を伸ばし主食用米の需要を拡大したい。若者が夢と希望をもてる農業の実現に向け、取り組んでいく」と熱く語りました。今後、炊飯不要という簡便性を活かして、パックご飯を輸出拡大の切り札とすべく増産に取り組んでいきます。